

18,000人突破

'97.3.会員総数18,570名

同窓新報

題字・故 上野慧賢先生

駒大高校同窓会 会報

発行所

駒沢大学高等学校
同窓会

東京都世田谷区上用賀1丁目

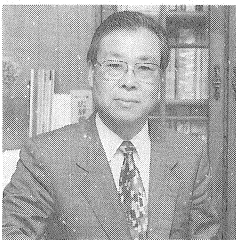
〒158 TEL.3700-6131(代)

振替口座 0018-6-61881

情報社会の潮流

第一期

鳩 貝 清太郎



「21世紀に生き続けねばならないとなったら、ご免こうむりたいですネ」。正月、五木寛之氏が対談者の質問にこんな類のことを言っていた。これからの時代のえもいわれぬ不安と混沌に話が及んだ時である。

一人当りのGNPでアメリカを追いぬき、世界の頂点に登りつめた我が国の将来に確固とした自信を持ちえないのはなぜか。政官をはじめ、いたるところに生じている金属疲労を更に侵し続ける日本の状況にあつて、私にも、五木氏と底通するものがしつかりとある。

「二〇〇〇年はどういう年になっているか」がいただいたテーマである。この年、わが同窓会は五十周年を迎え、それにちなんだ企画だと聞かされた。

五十周年という言葉の響きにいささかの感慨を覚え、同窓会に往時を懐かしむ世代のまぎれもない一員として、この依頼を心よく受けたのはいいが、正直なところ、今の社会の変化や人々の心の在り様に、「混沌」を見てとつていて、とりあえず、五木氏に託して、心情が先ず、出て来てしまつた。

私は、第二の人生という語法を好まないが、責任という点では遙かに気楽なところ、今、情報系大学の衛星通信教育という、ある面では先端的だが、十分に確定していない教育システムのなかで、学生の指導に當っている。

「情報」との係わりを持ったのは十年以上も昔になる。当時、私はある高校の校長職にあつて、CAIという、コンピュータを利用した教育を実践した。やがて文部省の「情報教育の推進に関する調査研究」の委員という予期しない仕事を体験することとなった。

そういう点では、インターネットだ、騒々しい時代状況にも、同世代の多くの人たちよりは、抵抗感はないだろう。しかし、そのことが、人間や社会にどんな影響を与え、その影響が分っていない。情報社会論もメディア論も進行形なのである。何事であれ、「変化」には光と闇がつきまとう。

情報社会の闇は何か、情報犯罪などの直接的なものは当然として、この豊かな社会の芳香とあいまって、

平成九年度
役員総会のお知らせ
日時 五月三十一日(土)
午後三時より
場所 二子玉川駅前
富士観会館
総会終了後
大沢 昇氏(三十三期J組・前都会議員)の講演があります。
演題「今後の政治の流れについて」
幹事・常任幹事・役員の皆様の出席をお待ちしています。

情報社会は、極めて自己中心的で身勝手な人間の形成力を持続するだろう。パソコンのように言うことを聞かない人間が互いにとり結ぶ人間関係はどのように「ペル友」と称する恋人の実験は未来に属している。情報社会の光を述べる紙幅はなくなったが、アメリカの情報スーパーハイウェイプロジェクト(人工衛星と光ファイバーケーブルのマルチメディアシステム)のようなネットワークが21世紀には日本にも現実化するだろう。それに対応した社会のシステムが今、問われている。行政改革も、政治改革、教育改革もそのためにあるといつて過言ではない。

我々は一年一年と加齢をするが、これからの社会の中核にどんな腰をすえるであろう「メディア」にリテラシーの心で接したいものである。

プロフィール
東京教育大学(現筑波大学)理学部地学科卒
千葉県公立高等学校校長歴任
現在、北海道情報大学通信教育学部千葉教育サブセンター顧問・講師
地理教育・情報教育・学校経営等に関する著書(共著・論文を多数発表)。

第二回文化講演会報告

副会長 真田 治 孝

同窓会四十五周年を機に文化事業の一環として駒大高祭に参画させていただき、講演会を提供する事になりました。

この度第二回文化講演会の開催に当り二十五期生の進士徹氏を講師にお迎えし、去る十一月二日在校生に多数出席していただき講演をしていただきました。

演題は「土・自然から学び共に生きよう」というものでした。氏のプロフィールに拠ると駒大高校から駒沢大学文学部社会学科に進まれ社会福祉を専攻された

との事です。卒業と同時に宮城まり子さんが園長として運営されている「ねむの木学園」に勤務なさいました。この学園は皆様方ご承知の通り障害を持ち、なお家庭の事情等いろいろ難しい問題を抱えている子供達を収容している施設です。この施設をつくり運営する為に宮城まり子さんは私財を抛つて園長として日夜奮闘されておられます。

進士氏は社会への第一歩にこの学園を選ばれました。職員採用の面接に多数の人が応募しましたが、その中

で園長の琴線に触れる何か光るものが有ったのでしょ。直ちに採用が決まったとの事です。この時、既に氏の今日の生き方の伏線が出来上つていたのではないかと思います。

講演会の前日氏と初めてお会いしましたが、演題のように自然と共に歩んでおられ、また実践していられる方でした。手を拝見してその刻み込まれた皺に本当に土と格闘しているという遅まきさが有りました。

氏の主宰する「W A R E

おめでとうございます 朝内先生八段昇進

特別会員 鈴木 純 行

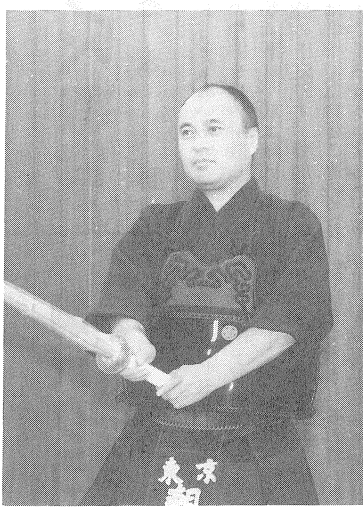
平成八年十一月二十七日に全日本剣道連盟の八段審査会が行われ、本校の朝内賢光先生がみごと合格という快挙を成し遂げられました。

八段の受験資格は、満四十六歳以上で、かつ七段を取得してから十年以上の稽古を積まなければなりません。また資格が得られたと

しても、年間千五百人の受験者の中でわずか十数名しか合格が認められないほどの難関で、それは司法試験に通るよりも難しいといえるのではないでしょうか。

今回の快挙は、東京都高体連においても十六年ぶりであり、関東高体連の中で現役の八段所有者は、朝内先生ただ一人しかおられません。

朝内先生の好きな言葉に「急流を渡る厳となれ」があります。今回の八段昇段は、先生の不断の精進弁道の賜物であるの言うまでもありませんが、同時にこの快挙は右の教えを実践するということ形で、我々に一つの「あるべき姿」を示されたもの、とも考えられるのではないのでしょうか。



R A元気倶楽部」のテーマが「土・自然から学び共に生きよう」です。そして氏は呼びかけておられます。

仕事に、勉強に、家事に疲れたら元気倶楽部に来てみませんか。ほっとひと息つきませんか。ここは人間充電の地ノ だ。

このようなことを踏まえて家族への思いやり、愛情、自然との交わりを氏はゆつくりとした口調で、やさしく生徒諸君に語りかけました。氏の体験に基づいた講演に活字では伝わらない何かを生徒諸君が感じ取っていただけたものと思います。またそこに我ら同窓会が講演会を企画する意義が有ると思ひます。

講演で氏のロマンチストでナイーブな一面を感じたり事を思い出しこの拙文を書きながら不図、作家徳富健次郎(蘆花)が明治の終り頃東京から千歳村柏谷(現世田谷区)に土間共十五坪の草葺きの家を買ひ求め移り住んだ頃の随筆に思い

作家と講師の生き方に時代も考え方もまた目的の違いも承知の上で、何か相通じるものがあるのではないかと敢えてその触りの一部を引用してみたい。

美的百姓
彼は美的百姓である。彼の百姓は趣味の百姓で、生活の百姓ではない。然し趣味に生活する者の趣味の為の仕事だから、生活の為に云うてもよい。(中略)百姓として彼は終に落第である。彼は三升の蕎麦を蒔いて、二升の蕎麦を獲たことがある。彼が蒔く種子は、不思議に地に入つて雪の如く消えてしまふ。

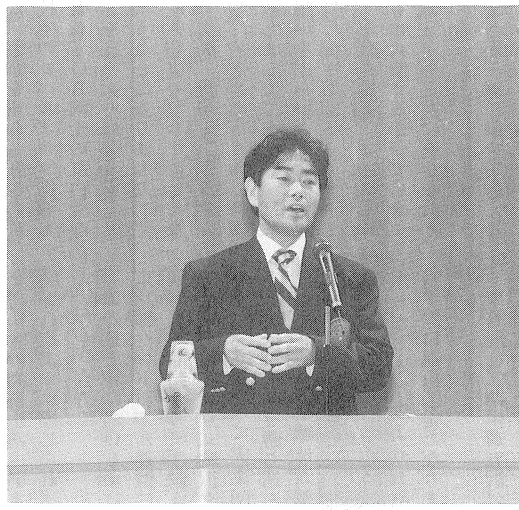
徳富健次郎作
「みみずのはこ」 岩波文庫

氏の耕作している土地は標高が高く農作物特に米作りにには、なかなか厳しい所だと聞く。氏のお人柄が苦勞を感じさせないが、氏の両手はそれを物語っているように思えてならない。

謙虚にそして真摯に「土・自然から学び共に生きよう」という進士徹氏に在る、同窓会共々エールを送りたい。

せん。数多い受験者の中には全日本選手権の優勝者などもありますが、それほどの実力があつても合格できないという現実の中で、八段取得とは、技量はもちろんのこと人格においても特に優れていることが認められたわけであり、まさに剣道界の最高峰といつても過言ではありません。

朝内先生の好きな言葉に「急流を渡る厳となれ」があります。今回の八段昇段は、先生の不断の精進弁道の賜物であるの言うまでもありませんが、同時にこの快挙は右の教えを実践するということ形で、我々に一つの「あるべき姿」を示されたもの、とも考えられるのではないのでしょうか。



受験生!!

駒大高校に学んだ縁を大切に、子弟を母校に学ばせたいとお考えの方は、一定の基準がありますが、優遇措置がありますので、事務局にお尋ね下さい。

第二回文化講演抄録

土、自然から学び
共に生きよう



二十五期 進士 徹

本題に入る前に、在学中のことに少し触れたいと思います。当時は男子校であり、一年は若月先生、二年は幸前先生がクラス担任でした。厳しいながらも優しさをたくさん感じる先生方でした。

部活動は吹奏楽部でした。私が三年の時に初めてコンクールに出場し、金賞を仲間と手にした喜びは、昨日のことのように鮮明に心に焼きついています。当時の友は生涯付き合えます。駒大高を誇りに思い、まさに青春でした。

「ねむの木学園」

さて高校卒業し、駒大で社会福祉を専攻し就職は静岡の宮城まり子園長の「ねむの木学園」に生活指導員として九年間勤務しました。福祉の道に決めたのは、母の影響が大でした。母は看護婦、保健婦、助産婦の資格を生かし、私が小学二年の時から保育所を始めたのです。昭和四十年代の高度成長期で、主婦も働く時代のことでした。母の働く姿を見て育った私は、大変な仕事でも、喜びも大きい福祉の仕事につきたいと思うようになっていました。

「尊主の死」

農業と田舎、野外体験などを通してさまざまな人達との交流を柱に生活をしていました。福島に根を下ろして、今年で十年になります。では東京出身の私がどうして田舎の生活を望んだのか？ それは長男が重い心臓病だったからです。親としてできることは何か？ 考え、考えた末に山間地域の無公害の空気と、安全で新鮮な野菜を育て、長男の尊主（たかもり）に食べてほしい、せめて健康体に近づける努力はできると思ったからです。迷いはありませんでした。

その尊主は、平成七年七月一日に他界しました。十一歳でした。私はその日を「尊主が生まれ変わった日」と言っています。またそう思うのです。四度目の手術にいたりましたが、頑張ったのですが、元気がなりたいという思いは果たせませんでした。このことは後で話すことに致します。

「ねむの木学園」
さて高校卒業し、駒大で社会福祉を専攻し就職は静岡の宮城まり子園長の「ねむの木学園」に生活指導員として九年間勤務しました。福祉の道に決めたのは、母の影響が大でした。母は看護婦、保健婦、助産婦の資格を生かし、私が小学二年の時から保育所を始めたのです。昭和四十年代の高度成長期で、主婦も働く時代のことでした。母の働く姿を見て育った私は、大変な仕事でも、喜びも大きい福祉の仕事につきたいと思うようになっていました。

「ねむの木学園」
さて高校卒業し、駒大で社会福祉を専攻し就職は静岡の宮城まり子園長の「ねむの木学園」に生活指導員として九年間勤務しました。福祉の道に決めたのは、母の影響が大でした。母は看護婦、保健婦、助産婦の資格を生かし、私が小学二年の時から保育所を始めたのです。昭和四十年代の高度成長期で、主婦も働く時代のことでした。母の働く姿を見て育った私は、大変な仕事でも、喜びも大きい福祉の仕事につきたいと思うようになっていました。

た。大地から、自然から恵をいっばい受けながら生きています。また愛情をもって手入れをすれば作物はこれに答えてくれるのです。このようなことを、喜びを今は少しでも多くの人に知ってほしい、体験してほしいと活動をしているのです。

「WARERA元気倶楽部」

現在の日本は厚く暗い重たい雲が取りまいていて、うな世情の中、少しでも元気がでるような所があってもいいのではと思うのです。幼児から熟年の人まで、お互いが尊重し生きて行けるそんな「故郷」にしていきたいと、天国の息子に誓いたいのです。

私の場合十一歳の息子を無くしました。悲しいことですが、精一杯親として尽くせたので後悔はありません。今は息子が天国から見守ってくれている安心感があるのです。

人生どうなるのか、何が起るかわかりません。大きな壁が立ち塞がることもしばしばです。そんなときこそ諦めず、勇気を出して前へ、前へ突き進んでほしいのです。きつと自分の思い描くようになることを確信しています。その時々自分の前向きな気持ちと行動が大切です。在校生の皆さんは、若さとエネルギーとたくさん可能性をもっています。その可能性を自分の人生おもしろく生きかききってください。そしてより多くの人とかかわりながら、自分の人生を楽しんでください。期待しています。

卒業生に福島の鮫川村でこんな生き方の方がいること、心のどこかにとめていただければ幸いです。どうぞ遊びにいらしてください。

青空とてもきれいですよ。

第五回会長杯争奪

ゴルフコンペ報告

四期 森本 勝

十一月十四日晴天の下多摩の名門府中カントリークラブで実施された。出場者は二期生から二期生迄の八名が参加し、新ベリア方式で会長杯に挑戦。今回はオフシアルハンデ、シングルの方の参加もあり非常に高いレベルの戦いとなり、クロス81で二期の石井清繁氏が初優勝され二位は十九期の中丸繁氏、三位は母校の教員で参加された松本修先生が入られた。一位から三位迄のスコア差はネット一つ差の激戦であった。

プレイ終了後クラブハウス食堂でパーティーが行なわれ、和気あいあいの内次回（昭和四十五年）度同好会よりスタート。発足当時より一、二、三期生の活躍が目覚ましくそれらの勢いを引き継いだ四期生以後も近年まで東京都および各大会等にその名を轟かせました。大々的な忘年会を開くよう



優勝十八期 高橋 巧
二位十八期 小林一喜
三位 三期 河本知磨
の各氏でした。

クラブチーム紹介②
駒沢クラブ
ハンドボール部OB会

二十二期 飛田 武則

当ハンドボール部は、昭和四十五年同好会よりスタート。発足当時より一、二、三期生の活躍が目覚ましくそれらの勢いを引き継いだ四期生以後も近年まで東京都および各大会等にその名を轟かせました。大々的な忘年会を開くよう



バレーボール部OB会発会式

十九期 倉橋 操

昨年の十一月二十九日、かねてより熱望していた伝説あるバレーボール部「OB会」の発会式ならびに懇親会が新宿の「ホテルセンチュリーハイアット」で開かれました。

そもそのきっかけは、私と同期の鈴木君との再会でした。鈴木君の息子（親子二代バレー部）が駒大高に入学したことから、今までにインターハイを始め種々の大会に於いて輝かしい戦績を残してきたバレー部であるが、「OB会」がないのは淋しいという話になりました。そこで五月に「広谷先生を囲む会」をOB有志で行ない、その時に是非この輪を広めて「OB会」を結成させようという総意で、各年代ごとに手分けして名簿を整理し

になりました。そのような経緯をへて我がOB会は、二年ほど前よりただの「飲み会」より、実戦できるチームをもう一度実現できないものかどうか、協議を重ね、在校の高校生のレベルアップ指導も兼ね、OB同士の紅白戦などを行い大いに楽しもうとすることになりました。平成六年よりバレー開始となり、昨年より「駒沢クラブ」の名称にて実業団トーナメント戦を勝ち進んで来ましたが、戦績は六部リーグAブロック三位、三勝二敗一引き分けという結果となり本年度より五部リーグに進出予定となります。

この日を境に当OB会は東京都ハンドボール連盟に登録を一年掛かりで手続きを行い、昨年より「駒沢クラブ」の名称にて実業団トーナメント戦を勝ち進んで来ましたが、戦績は六部リーグAブロック三位、三勝二敗一引き分けという結果となり本年度より五部リーグに進出予定となります。

事務局長 二期生廣五沢／四期生須貝／五期生永野、砂村／七期生深田／十二期生網野。毎年四月より十一月まで東京都リーグ戦（五／六試合予定）。練習随時。

今後の「OB会」の活動としては、①規約・組織の確立 ②「OB会名簿」の製本作成 ③通信の発行、等が挙げられます。OBの皆様の情報交換や現役生徒の試合の様子などを連絡しながら今後更に「OB会」が継続的に発展していく為に、OBの皆様の協力をこの紙面を借りましてお願い致します。



☆☆☆

お知らせ

田上太秀副会長が四月よりNHK教育テレビ「このろの時代」に出演し、「私典のことば」を話されます。第一回放送 四月二十日（日）午前七時三十分／八時三十分。以後毎月第三日曜日同時刻、全十二回を放送予定

その後の恩師

来馬規雄



私は昭和三十七年度から四年間教諭として、そのあと二年間は非常勤講師として、通算六年間、本校に奉職させていただいた。年齢は二十八歳から三十四歳までである。担当教科は英語だった。

昭和四十五年六月、父親

のあとを継いで、今の寺（とげぬき地蔵尊高岩寺）の住職になって今日に至っている。

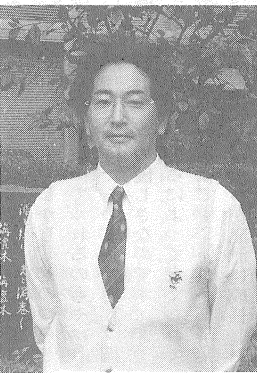
傍ら「仏教タイムス社」という新聞社（株式会社）の社長を務め、駒沢大学野球部の後援会長、その他もろもろの会の役員も務めている。そのおかげで、毎日ヒマがない。ヒマがなくて買った本をじっくり読むことができない。駒大高校時代はその点本当に辛かった。勉強ができた。

「学校」を意味する英語の「ヒマ」を意味する「スコレ」をその語源とする意味がよく分る。実際、会合から会合へと、とびまわっている人は、学問などおよそ縁がないのである。しかし、よい点もなくなる。職業がら、大勢の人の前で話をする機会がよくある。おかげで、話をすることに慣れて、その技法も少しずつ上達した。これは学校の授業とは少しちがう。ただ、その場合、学生だった若い頃、なせも本をたくさん読んでおかなかったと、いつも後悔する。若い時の読書経験が、あらゆる場合に大いにものをいうのである。その点、教員という職業をもっている人は、読書や学問研究そのものが職業なのだから、これほどくらしやすい職業はないと思う。

卒業生近況

自分の仕事に誇りあり

金持健司



私は二十一年前に駒沢大学高校を卒業させていただいた。卒業生です。在学中は校友会の会長として走りまわり、様々なことで先輩先生など諸先生方を困らせたりした記憶が今も鮮明に残っています。当時も校友会活動は盛んで、文化祭、

体育祭、球技大会、全国大会に出場したバレーボール部などの応援、第八支部での活動など、今から考えるとあつという間の高校生活でした。校友会活動では悪友にも恵まれ、文化祭など一緒に何かを創る楽しさも味わうことができました。

そして駒沢大学文学部歴史学科を第一志望にして本当に良かったと、今でも思います。大学に入ると、他県から入学してきた友達の影響もあって、すぐに「考古学研究会」に入部しました。それまでは「考古学」はとて遠い存在だったのですが、尊敬する倉田芳郎教授との出会い、豪快な先輩方の御指導、一生の友達

会費・寄付金納入者芳名

平成八年七月二十八日から平成九年一月二十七日までに納入された年会費です。今までに複数年度分納入された方がたくさんいらっしゃいますが、氏名は省略させていただきます。

会費納入者

(敬称略)

- (一期) 和智健次・吉田吉恵
- (二期) 市川道太郎
- (三期) 石井清繁・藤岡勇
- (四期) 谷口法山・大谷康憲
- (五期) 青山勇
- (六期) 菅間一成・渡辺忠
- (七期) 山根貞雄
- (八期) 中森和會・桑山信晃
- (九期) 神原晋・神宮孝志
- (十期) 三田英雄
- (十一期) 井野孝司・柳原義光
- (十二期) 中野東輝・美原清
- (十三期) 立野政男・林一義
- (十四期) 表勝昭・堤崇
- (十五期) 諸岡泰壽・大澤安幸
- (十六期) 白木誠一・菅沼勉
- (十七期) 武藤一彦・前田雅信
- (十八期) 齊藤充
- (十九期) 佐藤和行・月岡吉則
- (二十期) 笹原信二・安藤文正
- (二十一期) 市村喜己・松原清志
- (二十二期) 植木孝夫・橘智雄
- (二十三期) 松村喬・倉本澄夫
- (二十四期) 南條弘至
- (二十五期) 鹿島廣・長塚曉夫
- (二十六期) 野村利明・市瀬寛
- (二十七期) 岩崎孝和・小林清光
- (二十八期) 高橋功・細川泰徳
- (二十九期) 高橋道雄・中野玄糸
- (三十期) 鈴木正人・秋成知雄
- (三十一期) 加藤秀宣・岡部博文
- (三十二期) 脇田正治・松井孝司
- (三十三期) 村山則章
- (三十四期) 法雨浩・星野隆光
- (三十五期) 松田登・金子隆司郎
- (三十六期) 米山勝美・齊藤清
- (三十七期) 田中機一・飯塚辰男
- (三十八期) 泉弘一
- (三十九期) 鈴木真・上島秀雄
- (四十期) 荒井繁幸・伊藤良一
- (四十一期) 田中隆道・大上晃
- (四十二期) 露見和利・野本齊
- (四十三期) 森吉仁・平山弘行
- (四十四期) 根本隆司・菊地善彦
- (四十五期) 中川宙・浅井達
- (四十六期) 高村晃寿・高橋徳孝
- (四十七期) 大原武司・佐藤元泰
- (四十八期) 鈴木明・矢崎宏始
- (四十九期) 河口正之・五位淵隆弘
- (五十期) 蒲地伸吉・砂村栄治
- (五十一期) 勝浦清貴・早坂不二男
- (五十二期) 田崎博識・大野秀夫
- (五十三期) 白浜勇二・田島龍爾
- (五十四期) 横山和弘
- (五十五期) 北原徹・杉山富男
- (五十六期) 長瀬恵則・内藤敏樹
- (五十七期) 山本幸治・高野新一郎
- (五十八期) 藤岡康雄・大崎光弘
- (五十九期) 山田昌一
- (六十期) 石川浩和・長南尚文
- (六十一期) 南雲賢一・山本順祥
- (六十二期) 大崎泰輝・池田勝美
- (六十三期) 向笠嘉一
- (六十四期) 遠藤新志・奥島信明
- (六十五期) 森田一博・菊地寿昭
- (六十六期) 小川隆行・山下剛
- (六十七期) 本多正明・阿彦尚志
- (六十八期) 小岩幹宝・高橋淳史
- (六十九期) 羽場敬仁
- (七十期) 林卓男・松本一郎
- (七十一期) 富田康嗣
- (七十二期) 杉山幸一・中村健次郎
- (七十三期) 高山直也・吉澤誠
- (七十四期) 齊藤雄介
- (七十五期) 和賀茂樹・野村利和
- (七十六期) 米持健太・大内輝貞
- (七十七期) 松本一郎
- (七十八期) 山下大・小林亮一
- (七十九期) 片野拓弥・岩田章介
- (八十期) 恒川裕次・田中幸二
- (八十一期) 大森健司・近藤聖
- (八十二期) 坂口憲二・阿久津裕一
- (八十三期) 請恒彦・桑原亮太郎
- (八十四期) 倉又崇・望月太郎
- (八十五期) 鈴木朝春・森田智彦
- (八十六期) 越山正観・中村敏之輔

寄付金納入者

(敬称略)

- (三期) 大谷康憲
- (四期) 笹原信二
- (五期) 伊藤良一
- (六期) 矢崎宏始
- (七期) 横山和弘
- (八期) 松本一郎
- (九期) 池田忠夫・元商業科教諭
- (十期) 荒幡俊雄・四期
- (十一期) 石井繁・十四期B組
- (十二期) 平成年八月十一日
- (十三期) 佐藤敬司・十九期C組
- (十四期) 平成年九月
- (十五期) 福本勝男・二十二期D組
- (十六期) 平成年十月二十六日
- (十七期) 神原敏順・四期
- (十八期) 平成年十一月四日
- (十九期) 片岡誠次・三十七期C組
- (二十期) 平成年十二月九日
- (二十一期) 同窓新報二十三号発行以後連絡のあった方々です。

同窓生のお店探訪

やきとり「さかえ」

小田急線・京王井の頭線の下北沢駅・南口より歩いて三分の所に、落ち着いた「さかえ」が、落着くまで土と格闘する。これこそ教育の原点ではないか、少なくとも私は、一生懸命働く生徒達と先生方を見て、とてもすがすがしい気持ちになりました。こんな時にも私は、歴史を勉強して良かった。

埋蔵文化財センターに就職して良かったと思うのです。これから就職に、卒業した高校・大学に、そして自分自身に誇りを持って、一歩一歩ゆつくりでいいから、歩んでいきたいと思っています。最後に、駒沢大学高校のさらなる発展を祈って、筆を置かせていただきます。



「さかえ」の創業は昭和二十四年。大学を卒業して先代につき修行した二代目である。

タレと塩で……(タレは秘伝)新鮮な肉を備長炭を使い焼いている。焼き鳥は一回〇円、煮込みは五五〇円、地酒も新潟・山形など、二十四種類と豊富に用意されており、一人三千円もあれば充分とのことである。

座席はカウンターと椅子席が約四十席あり、焼き鳥と地酒を味わい、また主人と奥様の会話を楽しんで見たいが……

営業時間は五時三十分～十一時。日曜日は定休日。但し祝日は営業。

各種会議報告

- 役員会 第一回 四月四日(木) 出席者九名 役員総会準備 文化講演会講師 創立五十年記念事業準備委員会
- その他 第二回 五月九日(木) 出席者十名 役員総会準備 予算・決算報告 事業報告 役員交代 その他
- 第五回 九月二十日(金) 出席者十二名 文化講演会 同窓新報二十三号 創立五十年記念委員会 その他
- 第六回 十一月二日(金) 出席者十一名 役員改選 同窓新報二十四号原案 役員総会講演会 第三回文化講演会講師 吹奏楽部クラブ助成
- 第七回 十二月十三日(金) 出席者七名 役員改選 経費節減 役員総会確認 第三回文化講演会講師 その他
- 常任幹事会 第一回 五月十七日(金) 出席者十二名 役員総会議事 野球部クラブ助成審議未了 その他
- 第二回 十月二十五日(金) 出席者八名 五十年記念委員会報告 役員改選 同窓新報二十三・二十四号 第二回文化講演会 その他
- 「冥福を祈ります」 池田 忠夫 元商業科教諭 平成年十一月二五日 荒幡 俊雄 四期 石井 繁 十四期B組 平成年九月十一日 佐藤 敬司 十九期C組 平成年九月 福本 勝男 二十二期D組 平成年十月二十六日 神原 敏順 四期 平成年十一月四日 片岡 誠次 三十七期C組 平成年十二月九日 同窓新報二十三号発行以後連絡のあった方々です。

母校は今

初めての卒業生

三年E組担任 兼 益 明 子



本校に勤務して四年になります。毎年、多くの卒業生を送り出していますが、初めて担任した学年というだけに、その思いも一層深く、嬉しいと同時に、寂しさも一入と感じております。「生徒が自分の生き方を発見する、その後押しがしたい。」という思いで教員になりましたが、生徒たちの様々な声を聞く度に、私自身の核がわからなくなり、泣きたくなる毎日です。しかし、そのつらさを救ってくれるのもやはり生徒たちの成長であり、彼らの優しさなのです。彼らによって育てられていく私です。いつか、卒業した彼らが立派に成長した姿を見せに来た時、私自身も成長した人間として、話をしたいと願っております。

マラソン・陸上競技大会を

実施して

保健体育科主任 丸 山 精 一

第十三回になるマラソン大会は十月十二日に世田谷区立玉川緑地マラソンコースで開催された。昨年より女子生徒の参加に伴い競技運営、健康管理に気を配った大会となったが全教職員、生徒役員の協力により男子十キロ、女子五キロメートルの競技を無事終える事が出来た。ここ一番の頑張りが見え、この大会の最近の若人であるが、学校の生徒は全員完走し、額よりほど走る汗を見てまばゆい大きな光を感じつつ、明日への大きな期待をもった。

楽しかったスキー教室

校外教育係 上 脇 正 次



迎り一面真っ白な銀世界そして、空には満天の星が輝いていた。東京では見られない自然の姿に感動したスキー教室であった。初心者から経験者まで、三十九名の生徒の参加で



でもやさしく、一回滑るたびにほめてくれたり適切なアドバイスをしてくれたりしたので、生徒達はやる気になり、転んでも頑張ろうと意欲的だった。そして、四日間の練習の成果を試すバツグンテストが待っていた。生徒達は、そのテストを受けるべきか、また何級を受けるべきか等の葛藤があった。その時、「迷ったときは受ける方を選んだ方がよい」とのアドバイスに殆どの生徒が挑戦し、多くの合格者が出た。不合格で涙を吞んだ生徒もいたが、自己への挑戦に満足し、前向きにとらえていく姿が嬉しかった。もう一つ忘れられないのは教師と生徒が一緒になって楽しんだクリスマスパーティー。先生達のいつも見られない一面に触れて生徒達は大喜びだった。励まし・挑戦・人間の触れ合い。たった六日間だったけれど、一人一人が、一回り大きく成長した姿を実感したスキー教室だった。

寒さの中、野球部員は懸命に練習、体力づくりに励んでいるのだなあと、思いつつ観戦記や考えを綴ってみました。某日、ネット裏で試合を観戦しているとスッススーと十数名の高校生が私の後方に席をとりノートを出し何やら記入し始めている。声高な私語もなくざわつかない。その逆「オヤ」と思ったのです。規律が出来てくるな、と何気なく襟元を見ると駒高の生徒(野球部員)でした。自校の試合ではなく他校の試合観戦でしたのにサラッと行動とった姿が印象

に残ったわけです。このように仕種から私は、平素から練習、基礎をしっかりと身に付けているな、の感じを受けました。比の様な態度(これがなかなか出来ない)が自然に出来るのと気持ちに余裕が持て相手が何を考えているのか判ってくる。昨夏の早実戦(九六年から東地区になる)、双方の体力と精神力のぶつかり合いは死力を出しきり数々の甲子園の好試合にも劣らぬ試合合いが出来た好例ではないでしょうか。私達にも対国立高校戦をも凌ぐ思いだったし感動を与えてくれた。

文化祭「夢創」 校友会総務局 渡我部 由 紀

十一月二日、三日、共学になってから二年目の駒大高祭が開催されました。今年のテーマは「夢創(ゆめづくり)」。どのクラスもなかなか展示の内容が決まらず、苦心していたようでした。私も一クラスの担任として話し合いに参加しましたが、あまり生徒の意気込みも感じられず、どうなることかと不安でした。それでも、前日準備とともなとクラスを装飾したり、買い出しに行ったり、 TENT が張られたりと活気にあふれ、どうか文化祭らしくなりました。



駒大高祭初日は、本校卒業生である進士徹氏の講演から始まりました。都会に住む私たちにあって、別世界のような話はなかなか興味深く、生徒も聞き入っていました。毎年服装などが問題となる有志バンドによるライブですが、今年は規模を縮小

やかなテープで装飾するクラスが多く、男子校の頃とは雰囲気がいぶ変わったようです。内容的には、何かを研究して発表するといふよりも、ゲームや音楽など文化部の展示も部員不足のため、苦勞していたようでした。文化祭に対する生徒の意識が薄れているのは事実ですが、伝統ある駒大高祭を続けていくためにも、生徒のための生徒による文化祭となることを今後期待したいです。

吹奏楽部 創部三〇周年記念コンサート 吹奏楽部顧問 吉 野 信 行

平成八年の暮れも押し迫った十二月二十六日、駒沢大学キャンパスの中に、メモリアルホールにおいて、吹奏楽部は創部三〇周年の記念コンサートとなる第十九回定期演奏会を開催しました。年末の平日という事で観客動員に不安がありましたが、当日は天候にも恵まれ、記念コンサートにあふさわしい満員のお客様に迎えられての開演となりました。

吹奏楽部 創部三〇周年記念コンサート 吹奏楽部顧問 吉 野 信 行

平成八年の暮れも押し迫った十二月二十六日、駒沢大学キャンパスの中に、メモリアルホールにおいて、吹奏楽部は創部三〇周年の記念コンサートとなる第十九回定期演奏会を開催しました。年末の平日という事で観客動員に不安がありましたが、当日は天候にも恵まれ、記念コンサートにあふさわしい満員のお客様に迎えられての開演となりました。

吹奏楽部 創部三〇周年記念コンサート 吹奏楽部顧問 吉 野 信 行

平成八年の暮れも押し迫った十二月二十六日、駒沢大学キャンパスの中に、メモリアルホールにおいて、吹奏楽部は創部三〇周年の記念コンサートとなる第十九回定期演奏会を開催しました。年末の平日という事で観客動員に不安がありましたが、当日は天候にも恵まれ、記念コンサートにあふさわしい満員のお客様に迎えられての開演となりました。